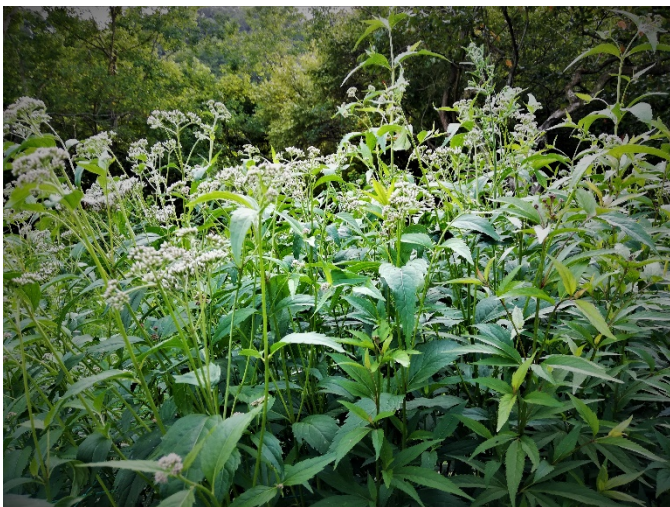


風とアサギマダラの生活(2021.08.31)

———フジバカマの開花の時期———



今年は植物全般に開花がだいぶ早いようである。気象庁の生物気象観測が縮小されて分かりにくくなったが、梅も桜も開花が早かったし、京都西山界限でもカタクリは10日ほど早く開花したようだ。

今年の天候はというと、1月前半は寒い日が続いたが、後半から4月初旬まで高温が続き、フジバカマの専門家である藤井先生は、秋の花にまでその影響は確実に及ぶはずだと言っておられる。昨日は木津川をサイクリングエリアにしている弟から『あと10日もしたら、ヒガンバナが咲きそうだ・・・』というニュースが入ってきたし、京都西山の花壇でも京都原種のフジバカマには、写真の通り全面に蕾が上がり、今にも開花しそうな気配である。藤井先生は『開花日は9月の気象で決まる』と言っておられるが、明日から9月、天気予報ではしばらく高温の日が続くらしい。

私はアサギマダラの生態を観察するときには、平均気温ではなくて最高気温を参照することが多い。何故かという、アサギマダラの生活適温(体温のこと)は30度前後にあり、気温プラス太陽輻射熱により体温は決まるのである。太陽光を浴びると体温は1分間で10℃も上がるので、アサギマダラは日向に出たり、日陰に入ったりして適正体温を維持しながら生活しているが、春から夏の気温が25℃を越えるころには高いところへ、あるいは北の国へと移動する生活をしている。秋の最高気温が20度の頃になると、今度は南下移動が始まり、各地のフジバカマ花壇が賑わう。

